

機関リポジトリの近未来

オープンアクセスからオープンサイエンスへ

第2セッション

コミュニティの力

富田健市@北大

尾城孝一@東大

杉田茂樹@千葉大

細川聖二@NII

大園隼彦@岡山大

西園由依@鹿児島大

林 豊@九大

佐藤 恵@東北学院大

山本和雄@横国大

高橋菜奈子@NII

新協議会の重点目標

- ・ オープンサイエンスを含む学術情報流通の改善
- ・ リポジトリシステム基盤の共同運営と有効活用
- ・ リポジトリ公開コンテンツのさらなる充実
- ・ 担当者の人材育成のための研修活動
- ・ 国際的な取組みに対する積極的連携

『新協議会設立趣意書』 (<http://id.nii.ac.jp/1280/00000145/>)より

機関リポジトリ関連組織

国公立大学図書館
協力委員会

国立情報学
研究所

大学図書館と国立情報学研究所との
連携・協力推進会議

これからの
学術情報システム
構築検討委員会

大学図書館
コンソーシアム連合
運営委員会

機関リポジトリ
推進委員会

大学図書館
コンソーシアム連合
(JUSTICE)

(新協議会)

JAIRO
Cloud
コミュニティ

デジタル
リポジトリ連合
(DRF)

新協議会設立準備会

2015.10.30 設置

新協議会設立準備会 委員名簿

IR推進委員会

富田 健市 北海道大学附属図書館 事務部長

尾城 孝一 東京大学附属図書館 事務部長

山本 和雄 横浜国立大学 図書館・情報部 図書館情報課長

森 一郎 新潟大学 学術情報部 学術情報管理課長

大前 富美 大阪府立大学学術情報センター 学術情報室主査

菊池 亮一 明治大学 学術・社会連携部図書館総務事務室 事務長

DRF

杉田 茂樹 千葉大学附属図書館 利用支援企画課長

鈴木 雅子 静岡大学学術情報部 図書館情報課長

尾崎 文代 広島大学 学術・社会産学連携室 図書学術情報企画グループ

鈴木 正紀 文教大学越谷図書館 館長補佐

主査 JAIRO Cloud

江川 和子 筑波大学附属図書館 副館長

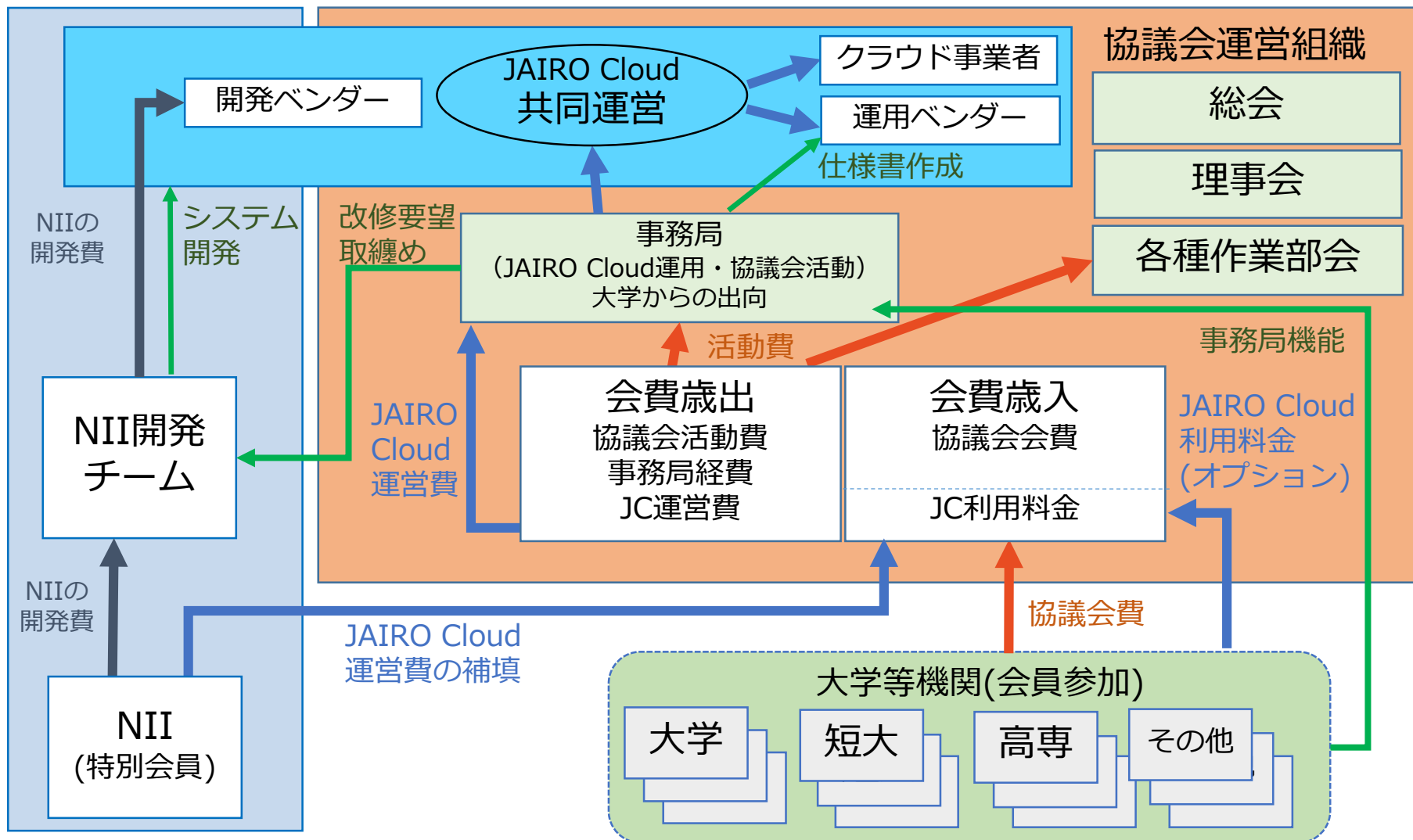
宇佐見 博 立教大学図書館 事務部長

NII

酒井 清彦 国立情報学研究所 学術基盤推進部次長

細川 聖二 国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課長

新協議会とJAIRO Cloudの位置づけ

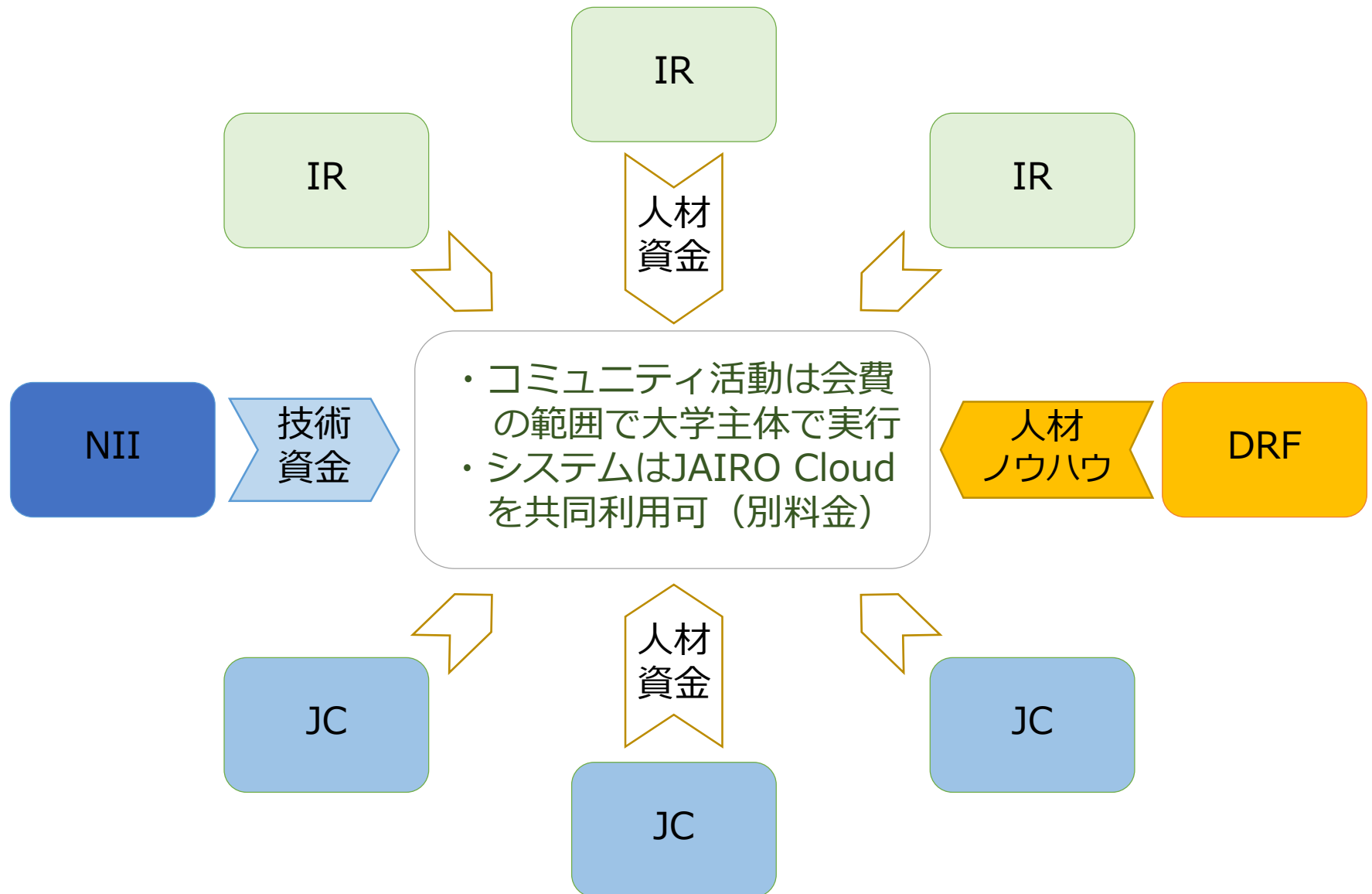


協議会費・JC利用料金表（案）

構成員数	協議会費	+ JC利用料金	計
～ 600人	2万円	8 ～ 24万円	10 ～ 26万円
601 ～ 1,100人	4万円	28 ～ 44万円	32 ～ 48万円
1,101人 ～	6万円	48 ～ 64万円	54 ～ 70万円

cf. 自力単独で運用する場合
システム 30～60万円？
情報収集 ? 万円（人件費）

各ステークホルダーの位置づけ



パネルディスカッション

- 目的・趣旨の説明
 - 機関リポジトリ新協議会<仮称>の構想を聞いて、疑問点を解消し、我々がどのように考え、どのようにコミットしたいかを語り合うパネルとしたい。
- ディスカッションのポイント
 - ①新協議会構想についての意見・疑問点に対して、発起人4名が答える。
 - ②次世代を担う4名から、今後に向けた希望・将来像についてのポジショントークを行い、5つの重点目標を深める。

モデレータ(NII高橋菜奈子)

ポジシヨントーク

【東北学院大学 佐藤恵】

学位規程改正とJC登場により中小私大のIR構築率は飛躍的に向上したが、先行構築機関との意識・知識の差、IR業界で展開される議論とJC構築機関が抱える課題の乖離感は否めず、IR黎明期に立ち返り再び人材育成にも注力する必要性を感じる。JCコミュニティの利点を活かしつつ、新協議会が人材育成面でサポートする体制があれば。

【九州大学 林豊】

情報システムの整備を中長期的なロードマップのもとで効果的に進めたい。各大学は人員・予算不足なので国のリソースを（クラウドサービスに）一点集中させるべき。新協議会にはNIIと各大学がスムーズに連携・協力できる体制の構築を期待したい。

【岡山大学 大園隼彦】

研究データ等、IRのコンテンツが多様化する。管理・利用の両面で各コンテンツに対応したメタデータの記述方法を整備する必要がある。国際動向に対応した基準の整備に加えて、コンテンツやコミュニティに応じた拡張方法まで提示できれば、他システムと連携しやすくなり、IRの価値が高まると考えている。

【鹿児島大学 西園由依】

相互運用性の促進、OAポリシーの協調、RDAとの連携等、国際的な動向に連動して諸課題の解決や研究基盤の整備に取り組んでいく必要がある。そのためにも、国内関係者がまとまって対応していくための枠組みに期待したい。